

NHK NEWS WEB

茨城 NEWS WEB



ぶどうの生産がさかんな常陸太田市で、地元の特別支援学校の子どもたちが育ててきたぶどうの収穫を体験しました。

常陸太田特別支援学校の子どもたちは特産のぶどうの栽培について学ぼうとワインの醸造などを行う地元企業の協力のもと、おととしから学校に隣接する畑を使ってぶどうを育ててきました。

5日は、小学部の6年生15人が「マスカットベリーA」という品種のぶどうの収穫を体験しました。

子どもたちは先生や企業の担当者に教わりながらはさみを使って茎を切っていました。

ぶどうの茎は固いものが多く子どもたちは初めはうまく切ることができませんでしたが、手伝ってもらいながら次々と収穫していきました。

収穫のあとは、ぶどうの試食も行われ、子どもたちはとれたてのぶどうの味を楽しんでいました。参加した6年生の児童は「切るのが難しかったけど楽しかったです。またぶどうの収穫をやりたいです」と話していました。

また、協力した企業「常陸コミュニティデザイン」の成田楓さんは「皆さんに楽しんでもらえて良かったです。これからも協力して一緒にぶどうを育てていきたい」と話していました。

5日収穫したぶどうはジュースに加工され、来月末から12月ごろに子どもたちに届けられるということです。